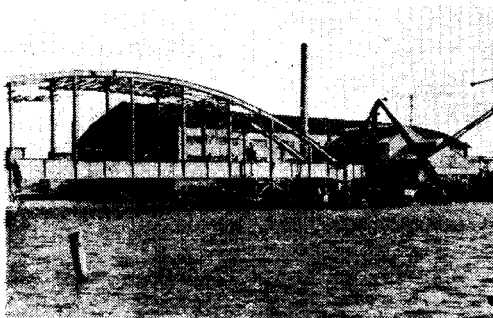


# ニュース

## 豊洲橋梁舢舨式架設

深川専用側線工事（東京都より国鉄委託）の最後を飾る豊洲橋梁の舢舨式架設（Pontoon erection）が4月28日に行われた。この架設工法は国鉄が戦後始めて行つたもので、架設地点の干満の差を利用して干潮時に桁下に舢舨を挿入し、潮位の上昇とともに舢舨が桁の荷重を受け始め、吃水が所定の荷重を受け得るまで潮位が上昇すれば桁が浮上する。このとき桁を引出して架設したものである。当日は引出時刻から強風が吹き始め憂慮されたが、無事45分間で引出を完了した。桁は、KS-15、単線下路のランガー桁（側径間 21.5m × 2、中央径間 56m、総重量 222t）であつて、今回の舢舨式架設はこの中央径間について行われたものである。

写真-1



(国鉄東京工事事務所次長 五味 信)

## 東海道線保土ヶ谷、戸塚間、粕尾川 跨線道路橋架設工事概要

1. はしがき 本跨線橋は建設省の戸塚国道改良工事による道路橋で架設工事を委託により国鉄において施工した。現在の国道は戸塚駅の手前で平面交叉しているが、新国道は途中の戸塚区下粕尾町地点より、東海道本線の保土ヶ谷—戸塚間において粕尾川橋梁（東京起点 39.25 km）と立体交叉（本線との角度右 40°）して延長 4.2 km 先の戸塚区汲沢町地点でもとの国道と連絡するものである。

2. 架設方法 本架設にあつては列車運行に最も支障を及ぼさないことを目的として施工した。

本線が電気運転区間であり従つて電線路に支障を与えないよう上越し、跳出しによりほぼ直角に本線を横断し、さらに 37° 左に回転せしめて据付けた。この施

工中桁下面に足場板を全面に敷き線路に対する保護とした。跳出しによる本線横断は桁中央部分に6台の「トローリ」と後部を2台の「トローリ」にて支え 46t の「カウンター ウェイト」を後部「トローリ」上にのせ重心の位置を後方に移し桁前半を跳出しにして前進し、海側「ステージング」上「ローラー」にて一旦受け、さらに前進して所定の位置に達したとき、前部「ローラー」を直角方向にかえ半径 53.2m の曲線上にのせた。

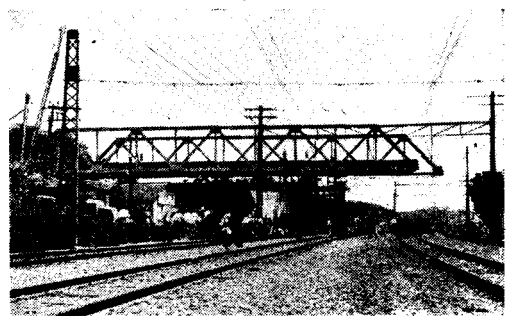
回転は山側橋台中心に「ピン」を取付け脊部分には各1輪ローラーを固定して桁の海側先端を東京方に引き 37° 回転後据付けた。このさい山側両1輪ローラーの軌道半径約 6m、海側先端回転軌道半径 53.2m で曲線長さ 47m であつた。

所要時間は跳出しによる横断は昼間閉塞により合計約 30 分速度（1.2m/分）回転は夜間 30 分（1.6m/分）であつた。

### 3. 桁の概要

型 式	ポニー トラス
橋 格	1等橋
支 間	55 m, 斜角左 65°22'48"
全 長	57.80 m
巾 員	全巾員 12 m, 有効巾員 11.0 m
縦断勾配	0.5% (拋物線勾配)
横断勾配	2% "
床 版	鉄筋コンクリート (厚 160 mm) アスファルト舗装 (厚 40 mm)
桁の重量	245.438 t (コンクリート除く)
現場鉋釘数	φ22 15 802 本 φ19 144 本

写真-1



7 月中旬における

## 和歌山県を中心とした災害について

本邦南岸沿いに停滞した梅雨前線のところどころに、7月17日夜半から18日朝にかけて南九州紀伊及び中部地方に豪雨があり、鹿児島（鹿児島、古江、志布志、日豊等の諸線）、熊本（鹿児島、高森、肥薩等

の諸線), 門司(長崎線), 大分(久大線), 天王寺(和歌山, 紀勢西線), 静岡(飯田線)等に被害が発生した。

特に紀勢西線箕島一切目間の被害が甚大である。主なる箇所の降雨量は19日8時現在で(国鉄記録)

鹿児島 225 mm 阿久根 504 mm  
八代 181 mm 長崎 180 mm  
海南 192 mm 橋本 240 mm  
桜井 204 mm 長島 193 mm

表-1 被害件数表(17~23日までの総括)

種別	橋梁	トンネル	土砂	上り	下り	両方	不明	計	備考
新橋									
旭川			4	7	7	1		22	1
豊田								12	1
秋田				1	3			11	14
仙台									1
新潟					3			2	3
長野								1	1
静岡	1	1		32	35			9	14
長野	2			5	2			37	8
山梨			12	2	3	1		3	2
愛知					9	2		3	1
岐阜	20	11	22	7	10	33	1	11	49
富山				15	1			11	1
石川				3	1			7	1
福井				3	1			7	1
山梨				1	2			1	1
西園				4	3			10	2
門司				3	2	1		2	8
大分				2	1	3		1	9
熊本				3	7	3		2	10
鹿児島				7	17	9	3	1	2
合計	20	11	25	87	146	111	38	5	2

被害箇所は20日8時までに判明したものが353件あつた。その後梅雨前線は除々に北上し, 20日朝, 関東及び中部にあり, 中央線, 飯田線, 身延線, 二俣線, 御殿場線等の諸線の沿線にしゅう雨性の雨を降らせ, このため被害が発生し, 特に中央線上松一大井間には

表-3 現在線路不通箇所及び開通目標(8月4日現在)

番号	線名	区間	開通目標	記事
天王寺	紀勢西線	箕島~紀伊宮原	8月15日	下鴨川橋梁 壊断
・	・	紀伊宮原~藤室	8月15日	有田川
・	・	道成寺~和佐	8月23日	日高川

橋梁その他の大きな被害があつた。このため21日8時現在には被害箇所は616件に増加し, その後調査の進行につれて, 被害件数は増加し, 25日8時現在では関係管理局は20局で960件に達した。

表-1は被害件数表である。

表-2は主要被害概況を 表-3は8月4日現在の不通箇所及び開通目標を示す。

なお国鉄施設関係の被害は天王寺局管内の9.3億円を含めて約13億円である。

表-2 主要被害概況

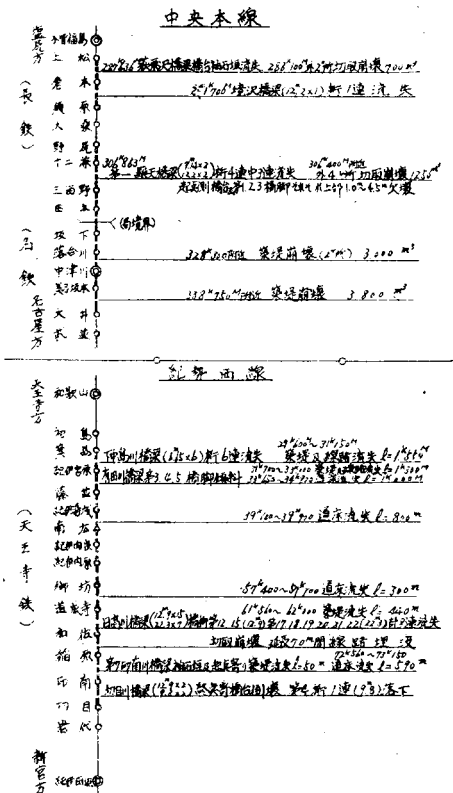


写真-1 日高川橋梁被害状況(道成寺より望む)



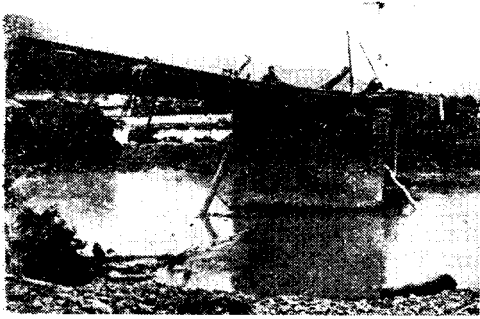
紀勢西線：道成寺一和佐

写真-2 第1滝原川開渠附近被害状況



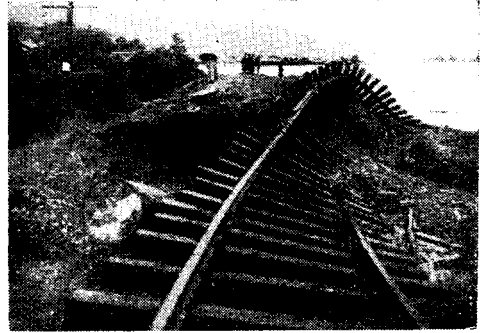
紀勢西線：箕島一紀伊宮原

写真-3 第2滝原川開渠附近被害状況



紀勢西線：箕島—紀伊宮原

写真-6 線路流出状況



紀勢西線：箕島—紀伊宮原

写真-4 紀伊宮原駅構内線路被害状況

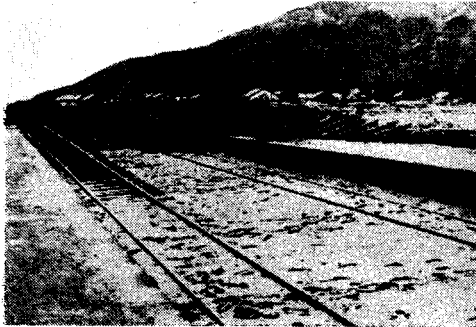
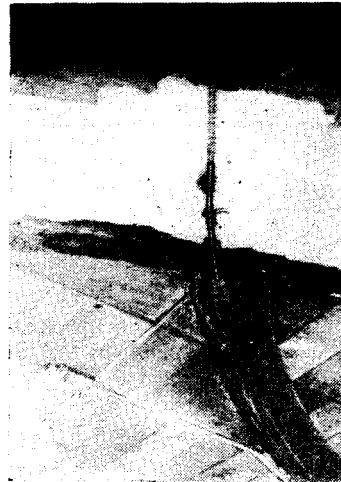
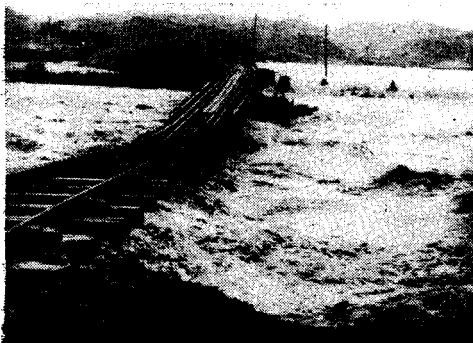


写真-7 切目川橋梁被害状況



紀勢西線：印南—切目

写真-5 切目川橋梁終点寄橋台流失し  
脊後築堤流出の状況



紀勢西線：印南—切目

写真-8 日高川橋梁桁（第12連）流出状況



紀勢西線：道成寺—和佐

写真—9 飯田線門島一唐笠間  
100.4 km 附近



写真—10 中央西線 291.650 km  
境沢橋梁橋桁流失



写真—11 同 302.800 km  
築堤欠壊土砂流失



写真—12 同第一羅天橋梁流出



(日本国有鉄道施設局)

## 建設省関係被害について

1. 気象概況 7月17日日本海中部を北西方面に進行中の低圧部は、山陰線米子附近及び九州南部を通り、さらに揚子江中流附近に達する閉塞前線をともなっていた。これが17日午後より18日早朝にかけて除々に発達しながら南下し、午前3時には和歌山県中部と奈良県大台ヶ原を横断して停滞前線となり雨や風をともなつてそのまま停滞したため、和歌山県高野山及び、奈良県大台ヶ原を結ぶ線の山岳地帯において巾50kmにわたり大雨をもたらした。

従つて高野山及び、大台ヶ原に源を發する各河川は数時間にして増水奔流し有田川沿線、日高川沿線十津川、新宮川沿線、貴志川(紀ノ川支川)丹生川(紀ノ川支川)等に大被害を及ぼした。

各地の雨量は表—1のとおりである。

表—1

観測所	大台原	高取	上市	五条	十津川	辻堂	上野地
日雨量	329mm	99	126	142	440	540	435
17日—18日 日雨量	"	"	"	"	"	"	"
連続雨量	不明	"	"	"	"	"	"

高野山	駒淵	和歌山	岩出	橋本	河合	大迫
287	240	70	82	175	440	250
"	"	"	"	"	"	"
517 17日~20日	不明	205 13日~21日	168 17日~21日	不明	"	"

## 2. 今次災害の特異性

今回の災害はわずか数時間にして稀に見る大豪雨となり地じりによるダムアップ等のために鉄砲水となつたため河川沿いの道路はほとんど姿をとどめぬほどに寸断され、また出水が夜間であつたため人畜及び家屋に甚大な被害を生ずるに至つた。

土木関係においては和歌山及び奈良山岳地帯の特異な地勢のため、ほとんどの道路は河川に沿つて海岸に出ているが、これら道路はほとんど寸断され数10kmにわたつて路形をとどめぬもの続出し、橋梁においては約100余橋に及ぶ永久橋が橋面上5~15mに及ぶ洪水のため流失した。例えば、日方高野線40km間、高野湯浅港線42km間、福井金屋口停車場線30km間、川上御坊線40km間、国道和歌山松阪線37km間、龍神南部線32km間、東野上岩出線10km間、国道新宮大和高田線70km間、洞川坂本線10km間等々である。

その災害様相を大別すれば次の2種に大別できる。

a) 河川の決潰によるもの これは通常の災害であ

るが降雨量が多いことと出水時間の短いため従来と異なり有田川貴志川等一河川 10 数ヶ所に及ぶ破壊を見た。\*

西日本水災調査表 (鉄道関係)

表-1 被害額調 (28年7月2日調) (単位千円)

	応急工事	復旧工事	計
被害額総計	530 880	2 432 720	2 962 790
軌道関係	405 000	539 700	944 700
線路工作物関係	36 900	1 456 000	1 492 900
停車場工作物関係	5 380	121 120	126 500
建物関係	65 300	282 600	347 900
機械関係	17 490	33 300	50 790

(国鉄西部総支配人室調)

表-2 線路建物関係被害件数

種別	件数	百分率(%)
線路関係		
切取崩壊	337	18.8
変状	22	1.2
築堤流失	22	1.2
崩壊	226	12.6
変状	78	4.4
擁壁崩壊	93	5.2
変状	33	1.8
線路流失	2	0.1
埋没	14	0.8
路盤流失	20	1.1
変状	69	3.9
線路浸水	227	12.6
道床流失	224	12.5
土砂流入	186	10.4
橋台橋脚流失	2	0.1
変状	24	1.3
橋桁流失	7	0.4
河水増水	34	1.9
その他	169	9.4
小計	1789	100.0
建物関係		
倒壊	22	0.6
半倒壊	29	0.8
傾斜	188	5.5
床上浸水	881	25.6
その他	2320	68.0
小計	3440	100.0
合計	5229	

(国鉄西部総支配人室調)

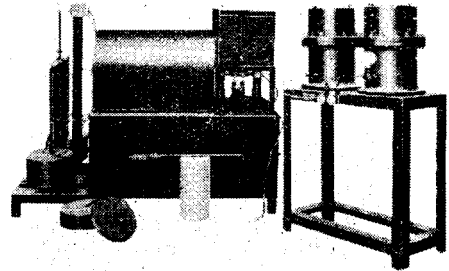
新型コンクリート高圧透水試験機

荷重式蓄圧機構を有するコンクリート高圧透水試験機が電力中央研究所指導のもとに、K. K. 丸東製作所において試作が成功し、仙台市における土木学会総会において公開試験が行われた。

従来の透水試験機は圧力源として瓦斯圧力(空気、酸素等)を使用したものが大部分であつたが、この瓦斯圧による試験機は高圧(10 kg/cm<sup>2</sup>以上の圧力)に対しては危険感がともないがちであるとともにバルブその他に故障を起すことが多く、そのため透水試験は使用者にとつてもつとも困難な試験とされていたものである。今回の新型試験機においては瓦斯圧力を使用せず、直接水圧を使用し、しかも自動弁により長時間の連続試験が可能であり、水圧も 50 kg/cm<sup>2</sup>以上の高圧とすることもできるのみならず、スイッチ一つで容易に試験が行われるため斯界の注目をあびつつある。

透水試験の試験片は電力技術研究所式(吉越盛次氏考案)コンクリート標準供試体 15φ×30 cm を使用してある。

写真-1 コンクリート高圧透水試験機 C 17 型



試験片: 15φ×30 2筒掛け  
試験水圧: 最高30 kg/cm<sup>2</sup>, 最低 1 kg/cm<sup>2</sup>

※

b) 大雨のため地盤がゆるみ、大地沈りを起し、ために有田川上流、若園村、日高川上流川上村切目川上流真妻村地内等におけるごとく高さ、数 10 m に及ぶ土砂をもつて本川をダムアップし、この欠壊による鉄砲水が、下流の道路、橋梁、人家(御坊町最も激し)を埋没、破壊流失し去つた。

3. 被害状況 表-2,3 のとおりである。

4. 対象

a) 一般対象: 各般にわたる施策は早急に樹立しつつあるが最も緊急を要するものは山中に孤立した部落への食糧その他生活必需品の補給であるがこのため取りあえず米軍機による空中投下に急場をしのぎこれと平行して道路の復旧に全力を注いでいる。

表-2 土 木 被 害

県 名	河 川	海 岸	砂 防	道 路	樞 梁	港 湾	市 町 村	都市計画	合 計
	千円	千円	千円		千円	千円	千円	千円	
和歌山	5 336 000	52 000	231 000	2 252 000	1 453 000	219 000	2 370 000	404 100	12 317 100
奈良	367 500	—	101 500	1 566 250	50 050	—	600 000	—	2 085 300

ただし道路寸断交通杜絶のため調査不充分的点もあり多少の増加が考えられる。

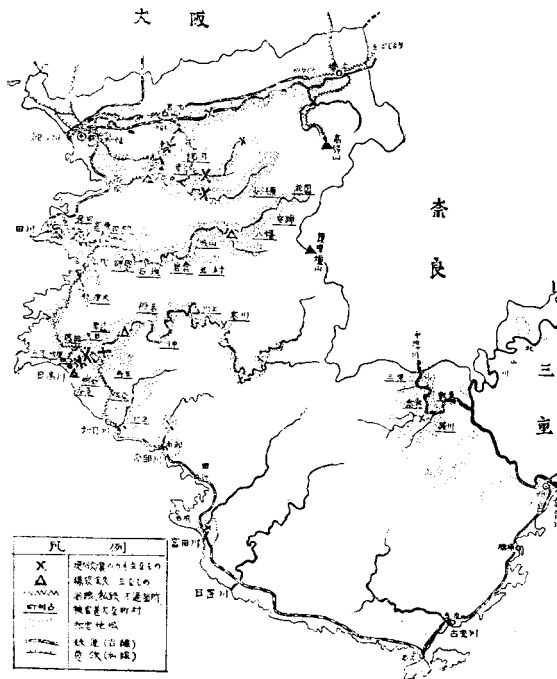
表-3 一 般 被 害

県 名	人 的 被 害		住 居 の 被 害		田 畑 の 被 害		鉄道不通
	死者行方不明	重 軽 傷	全壊流失	半壊浸水	流失埋没	冠 水	
和歌山	1 251 人	5 231 人	8 192 戸	46 571 戸	4 797 町	10 647 町	12 駅
奈良	44	30	223	1 597	267	1 567	—

b) 土木関係：今次の大雨災害に鑑み、河川堤防法線並びに計画洪水位の変更あるいは道路の全面的な路線付替の問題が今後の重要課題として残るが差しあた

り、次期出水に対する緊急箇所の仮締切と食糧その他生活必需物資の輸送路としての仮道、仮棧橋に全力を傾注している。

和歌山県水害被害状況（昭. 28. 7. 18）



（建設省道路局 森左馬太）

## 記 事

◎第2回理事会(昭.28.7.13)出席者:平井会長,福田副会長,榎,中島,岡本,佐島,坂本,篠原,最上,片平の各理事,協議事項:1)6月中の行事その他報告,2)日本学術会議会員候補者について,3)夏季講習会について,4)日本標準調査会臨時委員(基本部会標準数専門委員会臨時委員)として田原保二君を推薦すること,5)学術定期行物の出版方式並びに引用文献記載方式について文部省学術情報室からの照会に対しては異議ないこと,6)毎日新聞学術奨励金交付候補者には該当者なし,7)40周年記念事業として会館建設,土木関係各部門要覧等研究のこと,8)プレストレスト コンクリート 委員会委員に近藤泰夫,岡本舜三,宮崎義成,樋口芳朗,山崎寛司,村田二郎の諸君,編集委員に鈴木溪二(都市計画),三木五三郎(土質の福岡正己君の後任)の諸君を追加承認,9)橋梁構造委員会を設置し国際橋梁構造力学協会及び日本学術会議内橋梁構造委員会と連絡することとし次の諸君に委員を委嘱すること(青木楠男,成瀬勝武,安宅勝,福田武雄,松村孫治,富樫凱一,平井敦,友永和夫,小西一郎,田原保二,田中五郎,奥村敏恵の諸君),10)土地震の研究について,12)各種委員会委員長会議を今秋適当な時期に開催すること,13)秋季講演会を希望する会員もあつたが今年は開催しないこと,14)会員入退会を承認。

### ◎各種委員会

1. 第2回編集委員会(昭.28.7.20)出席者:岡本,佐島正副委員長,河上(代後藤)東北地方委員,森,矢野,三上,神田,三木,丸安,坂本,吉川,鈴木各委員,中川書記長,徳平幹事。協議事項:(1)会誌及び論文集進捗状況報告,(2)投稿論文及び新規受付論文審査委員の決定,(3)38巻9号掲載論文を次のとおり決定。

大野 諫:曲梁の歪エネルギーに対する新公式,赤井浩一:盛土の施工制御に対する考察,春日屋伸昌:開水路における垂直流速曲線について,深谷俊明:ハリ断面の一樣なる3径間連続橋における径間比について,小西一郎・小松定夫:ゲルバー梁の振動性状について(補遺),樋口芳朗:工学材料の模型解析

(4)論文集第18号(9月末発行予定)掲載論文を次のとおり決定。

谷本勉之助:Difference Method for Partial Differential Equations (Part II),米田正文:新高瀬川における洪水実験,田中茂:上下流に傾いている堤体断面内の自由水面,内田一郎・松本鍊三:乱した土の強度の変化,林泰造:Mathematical Theory and Experiment of Flood Waves,後藤正司:砂の

音響透過について,酒井忠明:中空円筒殻体の強制振動,青木康夫:多径間高層立体ラーメンの一般解法。

(5)38巻7号討議依頼先の決定,(6)その他

2. 抄録委員会(昭.28.7.7)出席者:樋口,平嶋,千秋,林,南部,吉村,渡辺の各委員,徳平幹事。協議事項:1)林,渡辺,樋口,平嶋,森の各委員から38巻8号用として各1編ずつ抄録すること,

2)抄録委員が抄録を作製した場合の原稿料について,

3)手持外国雑誌の論文名,著者名を学会誌に登載することは次回で協議のこと,

3. 第2回プレストレスト コンクリート委員会(昭.28.7.3)出席者:吉田委員長,沼田,国分,田中,川口,田村,三浦,菅原,小寺,片平,伊東,田原(代),木村,渡辺,丸安,宮崎,配島,平川の各委員,議事:1)幹事の決定,国分委員の発案により,吉田委員長の指名をもつて幹事を定めることとし,川口委員幹事に指名さる,2)田中,仁杉,山田,川口の各委員により作成したフランス,イギリス,アメリカ,ドイツの示方書等による原案の説明を各担当委員が行つた,3)次回は主としてフランス,イギリス,ドイツの3案のどれによるか,目次をどんな配列にするかという点について各委員案を持ちより検討する,4)岡本,近藤,宮崎,樋口,村田,山崎の6氏を委員に追加すること。

4. 第3回プレストレスト コンクリート委員会(昭.28.7.24)出席者:吉田委員長,沼田,国分,岡本,近藤,田中,木村,渡辺,田原(代),宮崎,村田,山崎,平川,三浦,樋口,菅原,深谷,小寺,田村,川口の各委員,議事:1)フランスの示方書に関する説明を宮崎委員が行つた(不明箇所について宮崎,岡本,樋口の各委員分担調査のこと),2)次回はフランスの示方書の説明及びドイツの示方書の説明をそれぞれ宮崎,川口委員が担当すること,3)次回で目次案を検討してから国分,川口両委員が原案を作製する予定。

### ◎その他

1. 夏季講習会講師打合せ(昭.28.7.6)出席者:福田副会長,岡本,最上,片平の各理事,吉田,藤田(代),武尾(代),海上,田原,久保,奥村の各講師,議事:1)前回理事会で決定した実施案を骨子として各講師の細目について打合せ,2)原稿は7月10日までに提出願うこと,3)映画題目,所要時間等決定,

4) 見学先, 人員, 集合場所等決定, 5) 聴講者の割当案を作成。

**2. 国際会議 歓送午餐会** (昭.28.7.10) 出席者: 星栴, 村山, 藤井, 福岡 (第3回土質基礎工学国際会議), 石原, 本間 (1953年国際水理学会大会), 徳善 (国際大ダム会議専門部会) の各代表, 平井会長, 福田副会長, 榎, 岡本, 佐島, 最上, 片平の各理事, 那波, 大河戸, 辰馬, 八田, 谷口, 草間, 鈴木, 岡田, 吉田, 大西, 稲浦の各前会長, 安芸, 前川, 丹治の各名誉員, 岩塚, 田中, 田原, 三上, 三木の各常議員, 当山土質委員会委員長, 谷藤, 斎藤, 手島, 巻内, 河上, 後藤の各常任委員, 林水理委員, 千秋海外連絡委員, 東北支部原田支部長代理。まず平井会長から各代表者を送る挨拶によつて会を初め, デザートに入つて徳善, 藤井, 本間の各代表から謝辞を述べられ, 続いて千秋 STAC 局長から最近の学術会議の動きと, 今後科学者の発展を望むとの希望を述べられた。また話をされぬ人もあるやに見えたが時間も大分すぎたので和やかな雰囲気の中に会を閉じた。

**3. 第3回応力連合講演会中間報告**: 括弧内は前回の数講演数 138 (140)

1部 65 (63) 材料力学, 2部 32 (37) 流体力学,  
3部 12 (6) 熱, 4部 32 (34) 振動, 応用数学,  
各学協会講演申込数  
機械学会 57 (61) 日本物理 18 (23) 土木学会  
12 (17) 応用物理 3 (1) 航空学会 24 (27) 造船協会 5 (5) 建築学会 16 (6) 外 3 (0)  
講演前刷は建築学会で準備中, 頒布価格 1部 80円,  
2部 50円, 3部 30円, 4部 50円

4. 建設省では7月9日~19日関国土建設週間を開催し, 建設機械の展示を行つた(建設機械化協会後援)。

5. 水道協会では7月6, 7両日横浜大学で研究発表会があつた。

6. 日本物理学会では9月10日東大安田講堂で Mott, Slatter, Wheeler の三博士公開講演会を開催することである。

## 支部だより

**1. 関西支部 第2回役員会** (昭.28.7.6, 中央電気倶楽部において) 出席者: 鈴木支部長, 松島, 高西, 福留, 林, 武居元支部長, 天竺常議員, 八島, 遠藤, 岡部, 海淵, 谷, 杉, 松尾, 秋山, 三木, 樋渡, 天野各商議員, 浦上幹事長, 森垣, 成岡各幹事, 中川主事。新旧支部長の挨拶に次いで 議事: 1) 安藤四良君を幹事として推薦することに決定した。2) 昭和28年度事業計画について次のとおり開催することとし, それぞ

れ実行委員を作つて具体的に準備することに決定した。

イ. 橋梁工学に関する講習会 (29年3月実施予定)

ロ. 関西工学連合講演会 (28年10月実施予定) ハ. 土木工学研究会 (28年11月実施予定), ニ. 通俗講演会 (28年11月実施予定), オ. 報告: 1) 丸山水力発電所建設工事見学会中間報告, 2) 水工学講習会報告。

**見学会** (昭.28.7.11~12) 参加者 42名, 午後3時名鉄犬山遊園駅前集合, 同7時迎帆楼で懇談会を開催し, 翌12日午前9時出発, 10時30分関西電力丸山発電所建設工事現場に着, ただちに見学を初め午後1時30分まで十分視察し, バスで名古屋駅に着いたのは3時30分, ここで一同解散, 好天に恵まれ有意義に終了した。

**2. 西部支部 第5回幹事会** (昭.28.7.1) 出席者: 山東幹事長, 山崎, 上田, 和田, 天方(代), 佐田(代), 乙藤(代), 大塚(代) の各幹事, 議事: 1) 7月3日(金) コンクリート研究会と共催で九電田代氏の講演会開催, 2) 7月3日(金) 午後, 今回の水害対策を西部支部として研究する, 3) 会長からの見舞状を関係各方面へ通達すること, 4) 水害速報を学会誌7号に掲載するため災害概要写真等を取りまとめること, 5) 会員名簿の作製, 6) 8月10日の研究発表会は水害のため延期する, 7) 夏季講習会の時期について, **講演会** (昭.28.7.3) 参加者約60名, 九大工学部で開催, 講演: 欧米のダムについて, 九電土木部次長 田代信雄, 映画: 上椎葉ダム準備, 九州の電力, コンクリートの舗設。

**第6回幹事会** (昭.28.7.17) 出席者: 山東幹事長, 山崎, 乙藤, 上田, 佐田, 和田, 大塚(代), 別所(代) の各幹事, 議事: 1) 7月21日福岡市で土木部長会議開催の機会に商議員会を開催すること, 2) 水害で延期された研究発表会は7月25日九州大学で開催すること, 3) 水害調査を各大学と共同で推進すること, 4) 今後の行事予定について, 5) その他, **第1回商議員会** (昭.28.7.20) 出席者: 菊地副会長, 伊藤 剛, 飯田一実, 是枝 実, 田中敬親, 山野善次, 西松康友, 塩塚重蔵, 吉田朝次郎の各商議員, 田中支部長, 山東幹事長, 議事: 1) 昭和28年度予算及び現在までの収支報告, 2) 寄付金応募状況, 3) 昭和28年度事業計画及び現在までの事業実績報告その他, たまたま災害視察で来博中の菊池副会長を迎え盛会であつた。なお今回の大水害調査費の援助を, 本部あて要請したが席上副会長に善処方依頼した。

**前期研究発表会** (昭.28.7.25) 参加者約100名, 講演次第は次のとおりで非常に盛会であつた。



開会の辞	田中支部長	ルーフシールド工法について	九州地建 住友 彰
土砂の剪断試験について	九大 水野高明, ○徳光善治	関門国道トンネル, 海底部断層破砕帯の施工	九州地建 ○松尾 寿一
コンクリート舗装版の目地間隔	九州地建 高橋 健二	波高観測の一例	第四港建 石川 進六
一次元圧密沈下外の沈下の存在を知る一試案	九大 大原 資生	海岸堤防の滲透流	佐賀大学 ○高田 京一
覆工コンクリートのコアテスト	九州地建 渡辺 辰生	コンクリート舗装版の反り応力	佐賀県 島内 政治
河川流砂量の推定	九大 篠原謹爾, ○薄 慶治	必要な粒度の土を得るための解析的方法	九州地建 伊吹山四郎
河床に発達する砂連	九州地建 河角 鶴夫	二三構造物の振動試験報告	八幡製鉄 中村 清
	○山口大学 椿 東一郎	21年を経過したコンクリート道路	元福岡県道路課 田上 為己
伊之浦橋の計画概要	日本産業再建技術協会 安富 毅	閉会の辞	山東幹事長
複殻式鉄筋コンクリート煙突固有振動周期の測定	九州地建 村上 永一		
いわゆるへドロの特性	八幡製鉄 中村 清		
	九大 山内 豊聰		

昭和 28 年 7 月分入退会報告 (28.7.1~7.31)

1. 入会 79 名 (特 1, 正 20, 准 31, 学生 27)
2. 退会 24 名 (特 1, 正 4, 准 18, 学生 1)
3. 転格 2 名 (准より正 2)

会 員 現 在 数 (28.7.31現在)

名誉員	賛加員	特別員	正 員	准 員	学生員	合 計	増加数
20	16	253	4 765	5 292	1 345	11 691	55

昭和 28 年 8 月 10 日 印刷	土木学会誌	定価 100 円
昭和 28 年 8 月 15 日 発行	第 38 卷 第 8 号	
編集兼発行者	東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地	中 川 一 美
印刷者	東京都港区赤坂溜池 5 番地	大 沼 正 吉
印刷所	東京都港区赤坂溜池 5 番地	株式会社 技 報 堂
~~~~~		
東京中央局区内 千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話 和田倉 (20) 3945 番		
発行所 社団法人 土 木 学 会 振替東京 1 6 8 2 8 番		